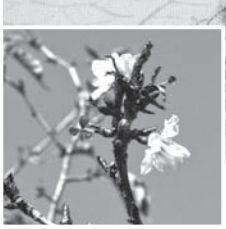
香取遺産 Vol.53

「千葉氏ゆかりの古刹」

樹林寺の四季桜



▲幕末期の樹林寺（「下総名勝図絵」より）
◀平成22年１月撮影

五郷内地区にある樹林寺は、千葉氏ゆかりの古刹で、夕顔観音の名でも知られています。

山号は白華山、臨済宗妙心寺派のお寺で、ご本尊は秘仏の千手観音です。寺伝などによれば、延長元年（923）、夕顔の畑から出現した霊仏といわれ、夕顔観世音菩薩とも呼ばれます。

大治年中（1126～）に千葉介平常重が、夢枕のお告げにより堂宇を稲荷山の中腹に建立し、この霊仏を安置したのが樹林寺の始まりとされます。その後、常重の孫、森山城主東胤頼が堂宇を再建し、貞和年間（1345～）には、その後裔の静胤が再び堂宇を改修。この時、覚源禅師（静胤の子、楽胤）を迎え、真言宗から禅宗へ改宗、開山しています。

江戸時代には、徳川幕府から寺領五石と山林十余町歩の朱印地を与えられました。元禄15年（1702）には、五代将軍徳川綱吉の母、桂昌院が、夕顔観音の霊験あらたかなるのを聞き、江戸城中で百日間のご開帳が行われました。

「下総名勝図絵」には、幕末期の樹林寺が描かれています。街道沿いの2階建ての大きな山門、石段を登り詰めた正面に見える本堂のほか、鐘楼、庫裏など多くの建物が配置され、大きな寺院であったことが窺えます。残念ながらこれらの建物は、明治4年（1871）の火災で悉く焼失し、本堂、庫裏、鐘楼が後に再建されました。

図絵にも描かれていますが、本堂前の境内に「四季桜」と呼ばれる珍しい桜が植えられています。開山覚源禅師のお手植えと伝わる桜で、江戸時代の地誌、赤松宗旦「利根川図志」でも四季咲の桜として紹介されています。明治の火災に遭ったためか、寺の治革などでは、大火後その古株から更に発芽したと伝わります。

最近の調査によれば、株立3本により樹形を形成、樹高520㎝、根元周214㎝、幹周136㎝（いずれも3本の総和）を計ります。周囲を石の瑞垣で囲んでいますが、これは嘉永4年（1851）3月に建てられたもので、石柱に俳句が刻まれています。

四季桜は、エドヒガンとマメザクラの交雑種と考えられています。四季といっても1年中咲くわけではありませんが、年に2度ほど開花するようです。樹林寺の四季桜の場合は、10月から1月頃にかけて花を咲かせます。昭和51年に市指定天然記念物に指定されています。

問い合わせ
生涯学習課
☎(50)1224